



和太鼓グループ彩 -sai-

わだいご
和太鼓グループ彩 -sai-

2005年、東京大学にて結成。当初は大学のサークルとして活動を開始しました。
大学卒業後は一般企業に就職したものの、夢を諦めきれず、2013年、会社を退職しプロとして活動を開始。

わだいご
プロになってからは、和太鼓のみならず、
箇笛や能管・チャッパなど様々な和楽器を用いた和楽器の演奏集団へと進化。

わだいご
独特の経験を活かした斬新なパフォーマンスが話題を呼び、2015年、全国ツアーや
2018年、菅田将暉主演映画「帝一の國」にてフンドシ太鼓シーンの総合プロデュースを担当。

わだいご
テレビ朝日「ミュージックステーション」への出演。

わだいご
2019年、ラグビーワールドカップ 2019™日本大会にて、
決勝・準決勝をはじめとして全6試合で選手入場演奏を務め、

わだいご
2022年には、NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」劇伴のレコーディングに参加など、
数多くのメディアやイベントに出演しています。

わだいご
また、2015年からは海外公演も本格的に開始。
外務省主催海外ツアーを始め、25カ国以上にて公演を行ってきの他、2017年イタリアにて、セリエA
「ローマ vs ユヴェントス」の試合前に演奏を実施、日本を代表する和楽器集団へと進化を続けてきました。

わだいご
「楽しいが響きわたる！」をテーマに、伝統的な文化や奏法にもとづいた
和太鼓をはじめとする和楽器の多様な演奏や楽しい音楽活動をお届けします！



れいわねんじ
令和4年度
ぶんかげいじゅつじゅんかいこうえんじぎょう
文化芸術による子供育成推進事業
じゅんかいこうえんじぎょう
—巡回公演事業—

たのひび
楽しいが響きわたる！
わがっさうごうげいじゅつかんしょくかい
和楽器の総合芸術鑑賞会
わだいこ

わだいこ
和太鼓グループ彩 -sai-



ぶんかげいじゅつじゅんかいこうえんじぎょう
文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

わくにいちりゅうぶんかげいじゅつだんたいしょうがっこちゅうがっこなどこうえんこどもすぐふたいけいじゅつかんしょき
我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機
会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術
鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。
じせんこどもじつえんしどまたかんしょしどうおこなじつえんこども
事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演ではできるだけ子供た
さんかちにも参加してもらいます。

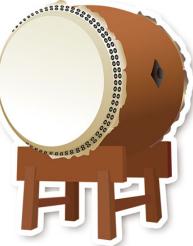
はじめに

日本の太鼓「和太鼓」は日本の伝統的な打楽器です。和太鼓は、時代に合わせ、様々な役割を担ってきました。時には、情報伝達手段として、時には、時間を伝える時計として、時には、音楽を奏でる楽器としての役割を持ち、時代を超えて人々に愛されてきました。

これから目の前で繰り広げられる和太鼓の演奏は、「組み太鼓」と言われるもので、約60年前に誕生した新しい演奏形式です。

日本各地に伝承される様々な和太鼓の奏法やリズムからなるアンサンブルを、目で見て、耳で聴いて、音の振動を体で感じてください。

どこか懐かしい日本の郷土の音をどうぞ、お楽しみください。



和太鼓の歴史

では、「和太鼓」はいつ誕生したのでしょうか？

その歴史は古く、縄文時代（人々が竪穴式住居に住み、土器を作り、狩や漁をして暮らしていた時代）のころから日本に存在したと言われています。

縄文時代～古墳時代には、お祈りや情報伝達の手段として和太鼓が使われていたと考えられています。実際に、長野県の遺跡からは、動物の皮を張って太鼓として使用されていたと考えられる土器が見つかっています。

聖徳太子が活躍した飛鳥時代には、「時」を知らせる道具として使われていました。

貴族たちによって日本の伝統的な文化が育まれた平安時代には、「雅樂」という日本の宮廷音楽の中で使われるようになりました。さらに、その音量の大きさから、戦での情報伝達や味方を鼓舞する「陣太鼓」としても使われ始めました。

その後、室町時代には「能樂」、江戸時代には「歌舞伎」「長唄囃子」という古典芸能の中でも使われるようになります。また、時を知らせる時報や相撲や芝居、お祭りの音楽である祭囃子や盆踊りなど、人々の生活の様々な場面で、和太鼓が使われるようになりました。

歴史を振り返ってみると、和太鼓は日本の歴史と密接に結びつきながら、発展してきたことが分かります。

楽器紹介

神社やお寺で使われていたことから、

「宮太鼓」とも言われます。

胴には、ケヤキなどの硬く強度のある木が使われています。

一本の木をくり抜き、その両面に皮を張り、金属でできた鉄で留めています。



お風呂の桶や味噌樽のような作りから「桶胴太鼓」と言われます。胴の作りは、一本の木をくり抜いたものではなく、杉・ヒノキなどの細い板を張り合わせてできています。胴の両面に、金属のフレームで張った皮をロープなどで引き伸ばして、音の高さを調整します。



長胴太鼓と同様にケヤキなどの木をくり抜いた胴の両側に鉄輪に張った革をロープやボルトを使って、強く締め上げています。甲高い音が鳴ることが特徴です。



日本のお祭りや神具として使われる伝統的な金属性の楽器です。高い音が出るので、楽曲にアクセントを加えることができます。また、奏法の変化による音の違いをお楽しみください。



日本の伝統的な横笛です。

竹に穴を開けた簡素な作りをしています。

また、能管は、「ノド」と呼ばれる竹製の筒が

中に入っています。独特な音色が生まれます。

和太鼓と合わせて演奏されることが多く、旋律を奏でます。